



花 山桜の里 戸赤

検討会で意見一致

栽培講習会

来年もおくやさんとの協力関係を大事にしていく

大粒を種子用に配分下

種を播いて大粒のものをそろえられると思う。下郷は大内宿、塔のへつり、物産館、道の駅など生のままで売れるところがいっぱいある。しかし私は戸赤に来て買ってもらうことを最終目標にしたい。戸赤の皆さんと付き合ってきた皆さんとの契約をガチガチにして価格の高い方に行かないようにしたいという(商売優先の)気持ちを切り変えた。戸赤の花豆は戸赤の村おこしに役立つように考えたい。山桜の名所を春だけに終わらせないように花豆の赤や白の花を見てもらうように持っていければいいと思う。(できることなら)村の小さな直売所に人が集まり戸赤の甘納豆はうまいぞというようにしていきたい。早稲沢にわざわざ買っていくと、実際に生まれていることもあるから。



11月29日、このしのもつめをして、来年への抱負を語り合う



花豆入り手作りロールケーキ

普及部の重松さん、おくやの松崎さん、アドバタイザーの積田さんを囲み十四人は、戸赤のこれからは話し合いました。

戸赤にとって花豆とは…
積田・花豆栽培は地域おこしの一環として始められ、これからは後継者が出てきて十年といわず二十年も三十年も続けられるようにしていかなければならないと思う。

山桜に花豆をプラス
松崎・今年できた大きな粒は戸赤産のものだから、来年はこの

土壌分析を役立たせて増収へ
重松・もう少し収量を上げることはできそう。今年が発芽して

からツルが伸びるまで不揃いであつた。原因は肥料が合っていない感じがした。昨年の土壌分析の結果が活かされず、不足成分を多少なりとも補うことができなかったからだと思う。ペーハーが低く石灰成分が足りないことは皆さんわかっているもので、来年は改善に近づけるものと期待している。

樹上乾燥はいいものが取れる
星(照)・重松さんと相談しながら枝の整理と追肥をしてきた。樹上乾燥を試してみようというので、豆の熟度を見ながらいくらか茶色がかったところを見はからつて、軽い初霜のあつた九月二十七日、十株くらいツルの根元を切つた。結果ははつきりと比較できないが割合いいものが取れたと思う。来年はみんな試してみよう。

松崎さんから大粒の種子
区長・大粒の産地を作るため、松崎さんから無償提供していただいたものを、来年の種子用として希望者に配分したい。栽培者のみんながどこに売るかとは別として、花豆のことで戸赤に来てくれる人を増やし、村がにぎやかになることまで考えている松崎さんには、これからもよろしくお願ひしたい。

松崎・戸赤の製品は放射能検査もOKだつた。皆さんの思い入れは分かっているつもりなのでこれからも続けていきたい。

【木地の学習No.14】白河領と会津領の境界争いの場になつた会津布引(山山論)に関する文書がある。「…」轆轤一艇に対する税は750文であつた。保城(現・館岩村)での取り決めでは留木、伐採区域の外に「…」と設定し積舎村と岩下村の入会地(現・館岩村)の戸倉沢へ入つた木地師達は、「山代之儀八巻二付四拾五宛て」と取り決めている。又、大沢村(現・柳津村)では、山手金として一人三朱ずつ徴収している。このように各村によって山代はさまざまであつたようだ。外には「…」木地を送り、米を運び入れる時の駄賃についても、他所より馬を頼んではならない。もし不服があつて自分で小屋を作り牛馬を置くのなら、草役を差し出せと記している文書もある。藤左工門を名指しで記しているところを見ると、彼は契約に違反して、他所から馬を頼んで輸送していたのだろう。村人にとって木地師はしよせんよそ者であり、よそから来る人間は警戒するべき者であつた。それを敢えて引き入れたということは、仕送りや輸送を村の者が行い、山手代を徴収し村の諸掛り(経費)も負担してもらつたという村にとってのメリットがあつたればこそこのことであろう。(奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづ)

